

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月29日現在

機関番号：55402

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720094

研究課題名（和文）横川景三撰『百人一首』及び『花上集』の全注釈

研究課題名（英文）The complete annotations of "HYAKUNIN-ISSHU" edited by OUSEN Keisan and "KAJOUISHU"

研究代表者

朝倉 和 (ASAKURA HITOSHI)

広島商船高等専門学校・一般教科・准教授

研究者番号：00390493

研究成果の概要（和文）：日本全国各地に点在する五山文学版『百人一首』と『花上集』の伝本収集をし、前者は慶応大学図書館本（竹中重門旧蔵本）、後者は慶応大学図書館本 I（岡田眞旧蔵本）が相対的善本であるという結論を出すに至った。そして、この両本を基にして、両作品の校本を作成し、注釈作業を軌道に乗せた。また、『花上集』の理解・解釈を助ける、内閣文庫蔵『花上集鈔』（2冊）の翻刻に関しては、乾巻・坤巻ともに完成させた。

研究成果の概要（英文）：I showed that the HYAKUNIN-ISSHU found in an old stock of Sige kado TAKENAKA in Keio University Library and the KAJOUISHU found in an old stock of Tadashi OKADA in Keio University Library, could be assumed to be relatively close to the original text. Based on these texts, I made variorum for the both literary works. As for the two transcriptions of KAJOUISHU-SHO in the Naikakubunko Library, which help us understand and interpret KAJOUISHU, I completed the former and latter volumes.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：中世文学

1. 研究開始当初の背景

「五山文学」とは、鎌倉・室町時代に五山派の禅僧によって作成された漢詩文を言う。その研究状況は、国文学の分野においては「傍流の文学」「学界の孤児」として敬遠される側面があった。文学的な研究が低調であった理由は、作品が難解だからであり、その具体的な要因としては、①日本漢文であること、②禅語が駆使されていること、③作者で

ある禅僧の悟境が超論理的に表現されることが多いこと、④経書・史書、經典・禅書、詩文集など典拠が多岐に渡っていることが指摘できる。要するに、五山文学作品を正確に読み解くためには、国文学・中国文学・歴史学・宗門等の多方面の知識が要求される。

一方、一昔前では考えられないが、近年、例えば、申請者もシンポジウムで発表した文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「東

アジアの海域交流と日本伝統文化の形成—寧波を焦点とする学際的創生—（通称：にんぷる）のように、様々な専門分野の研究者が交流して、五山文学作品に取り組みんとする気運が盛り上がっている。そして、その際、様々な研究者が意見交換をスムーズに行うためにも、また、多方面の知識が集まる機会が多くなったことで、その作業を能率良く、正確に行うことができるという点においても、今こそ五山文学作品の注釈作業に専念すべき時期である、と申請者は考える。注釈類が充実すると、それらを叩き台として、自ずと五山文学研究も深化するであろう。

申請者は注釈の対象として、五山詩のアンソロジーである、横川景三（1429-93）撰の五山文学版『百人一首』と『花上集』に注目した。

- a. 『百人一首』・・・1巻。漢詩。横川景三編。文明年間（1469-86）の後半成立。中世禅林の詩僧を100人選び、各1首を挙げた詩選集。京都五山を中心に、絶海中津・義堂周信・中巖円月・雪村友梅など室町初期の代表的な詩僧から、希世靈彦・正宗龍統・了庵桂悟など中期の詩僧に及ぶ。なかには伝記未詳の禅僧の作品も含まれる。全て七言絶句詩。
- b. 『花上集』・・・1巻。漢詩。某僧が建仁寺の少年僧文挙契選のために編集し、横川が命名（彦龍周興の序文による）。長享3年（1489）成立。京都五山の、詩僧として有名な義堂・絶海・太白真玄・仲芳円伊・惟忠通恕・謙岩原冲・惟肖得巖・鄂隱慧巖・西胤俊承・玉畹梵芳・江西龍派・心田清播・瑞巖龍惺・瑞溪周鳳・東沼周巖・九鼎竺重・九淵龍暎・南江宗沅・如心中恕・希世の七言絶句詩を各10首ずつ、合計200首集めた詩選集。『花上集鈔』という抄物もある。

2. 研究の目的

本研究では、横川景三撰の五山文学版『百人一首』及び『花上集』の全注釈の完成を目指す。数ある「詩の総集」から2書を選んだのは、①前者が、室町後期の代表的な五山文学僧である横川が“最も良い”と判断した作品群であること、②後者には『花上集鈔』という抄物があり、解釈の際に大変参考になること、③分量的に程良いこと、④中国詩を含まず、本朝禅僧の作品のみで構成されていることが、その理由として挙げられる。具体的には、次の計画を推進し、本目的の実現に努めた。

(1) 両作品集の諸本を収集し、本文を校訂し、校本を作成する。

(2) 抄物（『花上集鈔』を含む）や、江戸期の版本を参考にして訓読する。

(3) 『大漢和辞典』や市木武雄氏編『五山文学用語辞典』（続群書類従完成会）を調べたり、五山文学作品や抄物から用例を集めたり、中国の典拠を確認し、語釈する。

(4) 『花上集』の抄物である『花上集鈔』（内閣文庫蔵本）を翻刻する。

(5) 語釈や、『花上集鈔』の解釈を参考にして通釈する。

(6) 両作品集収載詩の重複状況や、禅僧個人の作品集や、他の詩選集である『北斗集』『中華若木詩抄』『翰林五鳳集』等との重なり具合を明らかにする。

(7) 特に玉村竹二氏『五山禅僧伝記集成』（講談社）に記載のない作者に関しては、その履歴を綿密に調べ、注記する。

3. 研究の方法

(1) 五山文学版『百人一首』と『花上集』の諸本収集

両作品集の伝本は、日本全国各地に点在し、それらを逐一調査する。ある古典作品を研究する場合、本文（伝本）研究は、最も大切な基礎的作業と言えよう。

(2) 『花上集鈔』の翻刻

『花上集』の抄物である『花上集鈔』（写本）は、内閣文庫蔵本（室町末期写、2冊）の影印が、亀井孝氏『語学資料としての中華若木詩抄（系譜）』（清文堂、1980）に全文掲載されているので、上記（1）の諸本収集の合間に翻刻作業を進める。

(3) 五山文学版『百人一首』と『花上集』の本文校訂及び校本の作成

両作品集の諸本を体系化することにより最善本（底本）を選定し、それを基に本文の異同を調査し、校本を作成する。

(4) 訓読・語釈・通釈

これらの作業は、相互に関連しているので、一連の作業として取り組む。その際、注意すべき点は、以下の通りである。

① 申請者は、五山文学を国文学の1ジャンルと見なしているため、訓読の際、当時の禅僧の訓み方や、伝統的な訓み方を尊重したい。したがって、それらの断片が残存する抄物（特に『花上集鈔』）や、実は五山版に訓点を付したものが刊行されていたという江戸期の版本を、最大限に参考にする。

② 『大漢和辞典』や市木氏編『五山文学用語辞典』を調べたり、五山文学作品や抄物から用例を集めたり、中国の典拠を確認し、語釈する。

③『花上集』の通釈には、『花上集鈔』を大いに利用する。

(5) 掲載詩の他書所伝の確認

両作品集掲載詩の重複状況や、禅僧個人の作品集や、他の詩選集との重なり具合を明らかにし、両作品集の収集源・収集態度・編集意図等を追究する。

(6) 伝記未詳の作者の追跡調査

特に玉村氏『五山禅僧伝記集成』に記載のない作者に関しては、その履歴を綿密に調べ、注記する。

(7) 注釈の公表

一般の学術誌は投稿規定を設けているため、大部な注釈を公表することは不可能であろう。現在のところ、勤務校の紀要に毎年、10～20首ずつ連載するつもりでいる。

4. 研究成果

(1) ある古典作品を研究する場合、本文（伝本）研究は、最も大切な基礎的作業と言えよう。申請者は、日本全国各地に点在する五山文学版『百人一首』と『花上集』の伝本収集をした。主な調査先は、刈谷市立刈谷図書館 村上文庫・西尾市岩瀬文庫・名古屋市蓬左文庫・国立国会図書館・駒澤大学図書館・国立公文書館内閣文庫・宮内庁書陵部・慶応義塾大学図書館及び斯道文庫・関西大学図書館長澤文庫・鎌倉東慶寺松ヶ岡文庫・大東急記念文庫・静嘉堂文庫・花園大学禅文化研究所・東京大学史料編纂所・お茶の水図書館成實堂文庫・京都大学図書館平松文庫・岡山大学附属図書館池田文庫・神宮文庫・京都府立総合資料館・尊経閣文庫等である。

管見の範囲で、五山文学版『百人一首』の伝本を列挙すると、次の通りになる。

(A) 写本

- ①神宮文庫本
- ②国会図書館本（『続群書類従』三百二十）
- ※③内閣文庫本（『続群書類従』三百二十）、④宮内庁書陵部本（『続群書類従』三百二十）。
- ⑤国会図書館 鶚軒文庫本
- ⑥京都大学附属図書館 平松文庫本
- ⑦お茶の水図書館 成實堂文庫本 I（伝横川景三自筆本）
- ⑧成實堂文庫本 II（澤庵和尚旧蔵本）
- ⑨慶応大学図書館本（竹中重門旧蔵本）

(B) 刊本一慶安三年（1650）版一

- ⑩刈谷図書館 村上文庫本
- ※⑪成實堂文庫本

(C) 複製本

⑫花園大学 禅文化研究所本

- ※⑬国会図書館本（第百三十九号）、
- ⑭成實堂文庫本（第一号）、⑮岩瀬文庫本（第七十二号）

日比野純三氏は五山文学版『百人一首』に関して、伝本の中に善本がない、配列の原形態を決定することができない、と述べている（「横川景三撰『百人一首』について 及び『校本百人一首（稿）』付排列一覧」、島津忠夫氏監修『日本文学説林』所収、和泉書院、昭 61）。確かにいずれの伝本にも看過できない誤謬が認められ、⑥平松文庫本や⑦伝横川景三自筆本（や複製本）のように一首欠落した伝本も存在するが、申請者は便宜的に江戸の刊本である慶安三年版本を基準にして、各伝本の作品配列を一覧表に纏めて検討した結果、⑨慶応大学図書館本が相対的善本であると判断する。当該写本は近世初期の武将で、黒田長政とともに関ヶ原の戦いで大活躍した竹中重門の旧蔵本である。重門は林羅山（1583-1657）に師事し、文筆にも優れていた。

また、『花上集』の伝本を、管見の範囲で掲げると、次の通りになる。

(a) 写本

- ①国会図書館本
- ②内閣文庫本 I
- ③内閣文庫本 II（『続群書類従』三百二十）
- ④宮内庁書陵部本
- ⑤慶応大学図書館本 I（岡田眞旧蔵本）
- ⑥慶応大学図書館本 II（竹中重門旧蔵本）
- ⑦静嘉堂文庫本
- ⑧京都大学附属図書館 平松文庫本
- ⑨建仁寺両足院本（慶応義塾大学附属研究所 斯道文庫撮影マイクロフィルムによる）
- ⑩東福寺霊雲院本
- ⑪岡山大学図書館 池田文庫本

(b) 刊本

- ア、寛永八年（1631）版
- ⑫西尾市岩瀬文庫本
- ※⑬宮城県図書館 伊達文庫本、⑭島根大学 桑原文庫本（欄外の書き入れ多し）

イ、承応二年（1653）版

- ⑮関西大学図書館 長沢文庫本 I

ウ、貞享三年（1686）版

- ⑯駒沢大学図書館本

- ※⑰長沢文庫本Ⅱ、⑱松ヶ岡文庫本
 (旧積翠文庫本)、⑲お茶の水図書館
 成篁堂文庫本Ⅰ

エ、刊年不明版

⑳大東急記念文庫本

- ※21 国会図書館本、22 国会図書館 顎
 軒文庫本、23 内閣文庫本、24 成篁
 堂文庫本Ⅱ、25 花園大学 禅文化研
 究所本、26 東京大学文学部インド哲
 学研究室本 (瀧田文庫)

4 系統の刊本は内容が同一なので、アの寛永八年版以外は、いずれかの本を覆刻したものと考えられる。また、写本に目を移してみても、(Ⅰ) 訓点を有するもの(①・②・④・⑥・⑧・⑨・⑩・⑪)とそうでないもの(③・⑤・⑦・⑨)、(Ⅱ)「幻雲曰」の注を有するもの(②・⑧・⑩・⑪)とそれ以外のもの(①・③～⑦・⑨)等に分類できるものの、基本的には本文に大きな異同はなく、同一系統と見なしてもよい範疇であろう。とは言え、内閣文庫蔵『花上集鈔』を含めて、中には収集詩が他本と若干異なる写本も見受けられるので、便宜的に江戸の刊本である寛永八年版本を基準にして、当該本の作品配列を一覧表に纏めて検証した。その結果、⑤慶応大学図書館本Ⅰ(岡田眞旧蔵本)が相対的善本であるという結論に至った。当該写本は、その識語から天文24年(1555)正月24日に尾張国の長島山妙興寺の清寥庵にて書写されたことがわかる。『花上集』の写本の中で、唯一書写年代が明らかな伝本であり、『花上集』が成立してから60年弱しか経っておらず、素性の確かな伝本と言えよう。

続いて、五山文学版『百人一首』は慶応大学図書館本(竹中重門旧蔵本)、『花上集』は慶応大学図書館本Ⅰ(岡田眞旧蔵本)を基に本文の異同を調査し、校本を作成して、注釈作業を開始、軌道に乗せた。

(2)②『花上集』の理解・解釈を助ける、内閣文庫蔵『花上集鈔』(図1)の翻刻に関しては、乾巻・坤巻ともに完成させた。その際、宮内庁書陵部蔵『義堂絶句講義』を参照した。



図1 『花上集鈔』(内閣文庫蔵)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

- ① 朝倉和、五山文学版『百人一首』と『花上集』の基礎的研究—伝本とその周辺—、文学(岩波書店)、査読有、隔月刊第12巻第5号、2011年、pp.196-219
- ② 朝倉和、国立公文書館 内閣文庫蔵『花上集鈔』乾巻の本文(翻刻)、広島商船高等専門学校紀要(広島商船高等専門学校)、査読無、2012年、第34号、pp.157-178
- ③ 朝倉和、国立公文書館 内閣文庫蔵『花上集鈔』坤巻の本文(翻刻)、広島商船高等専門学校紀要(広島商船高等専門学校)、査読無、2013年、第35号、pp.69-92

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝倉 和 (ASAKURA HITOSHI)

広島商船高等専門学校・一般教科・准教授
 研究者番号：00390493